

【グループ構成員の実践内容】

相沢 友紀 東京都立墨東特別支援学校 肢体不自由 準ずる教育課程 3～6年 総合的な学習の時間 ぼくのわたしの 2020 東京オリンピック・パラリンピック			
期待できる教育効果 (育成される資質)	ボランティアマインド 日本人としての自覚と誇り	障害者理解	スポーツ志向 豊かな国際感覚
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな国際感覚を育む。 ・オリンピック・パラリンピックの意義を考えることができる。 			
<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の導入として、「なぜオリンピック・パラリンピックをやるのか」という発問に対していろいろ意見を出してもらい、オリンピック・パラリンピックの意義について「世界は仲良くした方がいい」という意見がでたところで、調べ学習に移行した。調べ学習では「世界ともだちプロジェクト」に基づき、本校の担当国を中心にして主にインターネットを活用して調べ学習を実施した。 ・今年度は「ロシア連邦」「スーダン共和国」について調べ学習をし、校内のオリ・パラ掲示板に掲示したり、教室を飛行機の機内に見立てて機内アナウンスの体裁をとって学習発表をしたりした。 			
<p><生徒の様子></p> <p>最初は児童達にとって名前すら知らない国で会っても、調べていくうちに親近感が湧くようで「いつか行ってみたい」という児童もいた。文化の違いを受け入れ、相手国のことを理解しようとする気持ちは高く、今後、次の段階である直接的な交流にスムーズにつながっていくのではないかと考えている。</p>			
<p><考察（オリンピック・パラリンピック教育で活用できる教材、授業展開、改善点等）></p> <p>まず、改善点として、校内の意思統一ができていないことがあげられる。教員の中には「まずは日本のことを知ってから海外のことを学ばせるべき」という意見もある。しかし、すでに外国人も日本に多数住んでいる共生社会である日本において、「日本」「海外」という区分け自体が妥当であるのか疑問である。</p> <p>また、活用できる教材として、都心にある学校である故、大使館との交流は他の地域と比べて比較的容易であると考える。</p>			

大和田 章 都立町田の丘学園（肢体不自由部門） 高等部 「国際理解教育（異文化理解）」			
期待できる教育効果 (育成される資質)	ボランティアマインド 日本人としての自覚と誇り	障害者理解	スポーツ志向 豊かな国際感覚
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なものの見方や考え方を理解する。 ・外国や日本の生活や文化について理解する。 			
<p><活動内容></p> <p>教材は公益社団法人海外青年協力協会が作成した「セネガルのファールさんのくらし」である。この教材を改編して授業をした。写真を見たり、解説を聞きながら、「ファールさんと出会ったら、自分はどうするか」という視点で議論していく。その過程で日本とは異なる価値観で生活している人がいることに気づく。日本とセネガルを比べ外国の文化に気づいていく。</p>			
<p><児童の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の世界にも喜捨があるので（仏教では布施ともいうが）、「他人に財物などを施す」という価値観は理解していた。しかし、それは個人的な気持ちからであって、イスラム教のように「施し」が「共同体の社会福祉システム」としてあるということは初めて理解したようです。 			
<p><考察（オリンピック・パラリンピック教育で活用できる教材、授業展開、改善点等）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・50分の授業では足りないくらい色々なことを話し合うことができた。問いを精選するか、授業を2コマ分にするほうが生徒たちにゆっくり考える時間を設けたほうがよかった。 ・日本とは異なる価値観があることを理解し、その価値観を持つ人たちに配慮した多様なものの見方や考え方もつ豊かな国際感覚を養う教材である。 			

清水マヤ 都立墨田特別支援学校 (知的障害) 小学部高学年 「外国の音楽を演奏しよう～民謡・ダンスを通して～」		
期待できる教育効果 (育成される資質)	ボランティアマインド 日本人としての自覚と誇り	障害者理解 スポーツ志向 豊かな国際感覚
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の民謡等、様々な音楽の楽器演奏や身体表現を楽しむ。 活動を通して、世界にはいろいろな音楽があることを知ったり、あいさつ言葉に触れたりして外国に興味をもつ。 		
<p><活動内容></p> <p>◎フランス、スペイン、フィリピン、モロッコ、マレーシアの民謡やダンス音楽を、楽器を用いてリズム打ちや演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各国の「こんにちは」であいさつをする。 世界地図の上で日本の位置と各国の位置を確認する。 		
<p><児童の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> 聴いたことのある曲が、実は〇〇の国の音楽だったということを知ることで新しい発見ができた。 外国の言葉を使った歌は難しさもあったが、日本語以外の言葉を口にしてみるよいきっかけとなった。また、あいさつ言葉は毎回繰り返すことで、国旗を見ただけで言えるようになった児童もいた。 普段聴き慣れない音楽 (アラブミュージック) でも、リズムに乗って児童各々の表現でダンスを楽しむことができた。 		
<p><考察 (オリンピック・パラリンピック教育で活用できる教材、授業展開、改善点等) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽の授業で扱ったため、児童が外国に少し興味をもてたことまでしか達成できなかったが、他の教科でのオリンピック・パラリンピックの授業へ結び付けられるきっかけとなった。 現地の文化がわかる動画を ipad で提示することで、イメージをもちやすく、授業参加の意欲が高まった。 単元時数の関係で、今回は5か国しか紹介できなかったが、大陸によって楽器の種類や音楽の特徴の違いがあるので、それらを比べたりできる授業を組み立てられるとよかった。次回への改善点としたい。 		

鈴木優成 千葉県立東金特別支援学校 知的障がいのある中学部1～3年 キャップを集めてリサイクルし、世界の子どもたちにワクチンを送ろう		
期待できる教育効果 (育成される資質)	ボランティアマインド 日本人としての自覚と誇り	障害者理解 スポーツ志向 豊かな国際感覚
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会に貢献しようという意欲や他者を思いやる気持ちをもつとともに自己肯定感を高めることができる。 リサイクル対価を寄付することが目的であることを知り、地域のボランティアと一緒にエコキャップ運動に取り組むことができる。 友達や地域のボランティアの方と一緒にペットボトルキャップの回収、分別、シールはがしができる。 		
<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 中学部生徒全員で地域のボランティアの方と一緒に、エコキャップ運動 (ペットボトルキャップの回収、分別、リサイクル) に年6回取り組み、リサイクル対価をNPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会 (JCV) に寄付する。 「エコキャップ運動の歌」や「エコキャップクイズ」などの活動で継続して学習する。 NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会の講師から活動の意義やワクチンを届けている外国の様子を学ぶ。 リサイクル業者がペットボトルキャップを回収する様子を見学する。 		
<p><生徒の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> エコキャップ運動の流れや目的を繰り返し学習したことで、社会貢献活動に参加できることを意識でき、意欲的に活動に取り組む様子が見られた。 ボランティアの方や友達と交流を深めながら活動に取り組むことができた。 NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会の講師やリサイクル業者の方と、話をしたり質問をしたりすることで、活動への参加の意欲が高まっている様子が見られた。 		
<p><考察 (オリンピック・パラリンピック教育で活用できる教材、授業展開、改善点等) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に社会貢献に取り組むことができ、ボランティアマインド育成に有効であるのではないかと考える。 海外の状況に興味や関心をもつ機会となり、国際感覚の育成に有効なのではないかと考える。 		

森 裕紀子 千葉県立桜が丘特別支援学校 肢体不自由 高等部B課程3年生
「オリンピック・パラリンピックについて知ろう！調べよう！」

期待できる教育効果
(育成される資質)

ボランティアマインド 障害者理解 スポーツ志向
日本人としての自覚と誇り 豊かな国際感覚

<ねらい>

- ・オリンピックやパラリンピックの理念や歴史等を知ること、2020年東京オリンピック・パラリンピックに興味をもつことができる。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックの際に千葉県で開催される競技を知ること、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じることができる。
- ・パラスポーツを実際に体感し、より身近に感じ、興味関心をもつことができる。

<活動内容>

- ・クイズ形式やDVD教材を使用してオリンピックとパラリンピックの理念や歴史等について学ぶ。
- ・千葉県で開催される競技について、グループに分かれて調べてまとめ、調べたことを相手のグループにわかりやすいように発表する。
- ・ウィルチェアラグビーの車いすに乗ったり一緒に競技をしたりする。

<生徒の様子>

- ・オリンピックやパラリンピックという言葉は知っているけれど、詳しいことは知らない生徒がほとんどあり、「へえ〜」「そうなんだ〜」と言いながらクイズ形式の問いに楽しそうに答えていた。
- ・DVDのリオパラリンピックの映像はとても興味深く見ており、自分が知っている競技が映ると「あ〜ボッチャだ〜」「水泳だ！」等という発言が見られた。
- ・選手からタックルを受けてとても興奮していた。「今度試合を観に行く」と言っている生徒もいた。

<考察(オリンピック・パラリンピック教育で活用できる教材、授業展開、改善点等)>

- ・千葉県で開催される競技を調べたことで、「2020年に観に行きたい」と言う生徒もいて、授業を通して興味関心が高まったと感じた。
- ・DVDや写真等視覚的にわかりやすい教材を活用することで、生徒の実態に応じたオリンピック・パラリンピック教育が可能であると感じた。
- ・やはり実際に体験してみることで感じることやわかることがたくさんあると感じた。

安達 友紀 杉並区立荻窪小学校 第2学年
スーホの白い馬

期待できる教育効果
(育成される資質)

ボランティアマインド 障害者理解 スポーツ志向
日本人としての自覚と誇り 豊かな国際感覚

<ねらい>

- ・モンゴルを知ることを通して、世界の様々な国について興味・関心をもつ。

<活動内容>

- ・「スーホの白い馬」の舞台であるモンゴルについて知る。(担任によるモンゴルの紹介)
- ・「スーホの白い馬」の学習(国語)を通して、モンゴルの伝統的な楽器である馬頭琴について知る。
- ・馬頭琴奏者を招いて、演奏会を開く。その前座で、子供たちによる「モンゴルクイズ」を行い、保護者に発表をする。
- ・馬頭琴演奏会で、馬頭琴の音色を楽しむ。

<生徒の様子>

- ・モンゴルのことを知らない児童がほとんどであったが、興味をもって意欲的に取り組んでいた。
- ・教室内に、モンゴルの民族衣装やシャガイ(占い)、本などを集め、実際に体験できるようにした「モンゴルコーナー」を作ると、休み時間にたくさんの子供たちが体験していた。
- ・モンゴルクイズを保護者の前で発表する活動も積極的に取り組むことができた。

<考察(オリンピック・パラリンピック教育で活用できる教材、授業展開、改善点等)>

- ・今回は外国が舞台である国語の教材と絡めて、国際理解教育を実践することができた。単独で単元を設定するのは時数等の関係もあり難しいかもしれないが、教科と絡めることでオリンピック・パラリンピック教育を行うことが十分可能であると感じた。
- ・小学生の子供たちにとっては、初めて知る外国は大変興味関心が高いのだと感じた。国際感覚を身につけるよいきっかけになると感じた。
- ・意図的に教材準備をする必要がある。使用した教材を次年度に引きつぐなどして、あまり負担にならないようにできるとよい。

【授業実践の様子】

◇オリンピック・パラリンピックについて知ろう！調べよう！ 授業実践者：森裕紀子



『調べたことを発表している様子』



『調べたことを掲示物にまとめたもの』



『ウィルチェアラグビー体験』

【平成29年度の研究会実施日】

	実施日	活動内容
1	平成29年8月19日（土）	プロジェクト概要の共有、実践計画・年間計画の検討等について
2	平成29年12月24日（日）	実践状況の共有、授業案の協議、実践報告集作成等について
3	平成30年3月25日（日）	報告書のまとめ方、実践報告集作成等について



今年度は、研究会を3実施しました。
研究会では、実践の内容をまとめたものや授業指導案を持ち寄り、情報を共有するだけでなく、実践への助言や感想を伝え、各自の実践がより充実したものになるよう工夫しました。助言を活かしてよりよい授業実践につなげることができました。



【平成29年度のまとめ】

今年度は、昨年度の取り組みの成果と改善点を意識しながら、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図りました。今年度新たな授業実践をした人もいれば、昨年度のものを継続的・発展的に実践した人もいて、様々な障害種や教育課程での様々な実践が集まりました。

国際理解教育では、外国と日本の文化の違いや価値観の違いを感じることができました。また、外国のことを知るだけでなく、知って、日本や自分の生活と比較したり、そこから自分に何かできることはあるかと考え行動したりすることができました。

交流学习では、障害のある生徒達が地域の方々と協力して活動することで、障害者理解へとつながり、それが共生社会の構築へとつながると感じることができました。また社会貢献活動に継続的に取り組むことが、ボランティアマインドの育成にもつながると感じることができました。

オリンピックやパラリンピックについての学習では、オリンピック・パラリンピック自体についての理解が深まり、興味関心が高まるだけでなく、それをきっかけに外国への興味関心も高まり、国際理解教育にもつながり、児童生徒の視野を広げることにつながると感じました。

また、昨年度のまとめにも記述しましたが、

- ・具体物を用いることが効果的
- ・視覚的にわかりやすいよう、動画や写真を教材に用いることが効果的
- ・体験的な学習を通して学習することで、児童生徒の気づきを生んだり、物事や他人の意見に共感しやすくなったり、体感して多くのことを感じたりし、興味関心が高まり、理解がより深まる
- ・知るだけでなく、わかったことや感じたことを人に伝えたり発表したりすることが、学習をより深めるだけでなく、児童生徒同士の相互理解にもつながる

上記のことは、今年度の実践を通して共通して感じたことでした。

机上での学習と体験的な学習を組み合わせた授業を行うことで、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の様々な項目を網羅できることを再確認できました。

【2年間のまとめ】

2020年の東京オリンピック・パラリンピックが徐々に近づいてきている今、オリンピック・パラリンピック教育を充実させていくことが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの成功につながると感じます。児童生徒の国際感覚を磨き、世界と共に生きる一人ひとりの自覚と責任を促し、逞しく生きる人材を育成することを目指して、継続的に実践を積んでいく必要があるでしょう。今後も、様々な教科で横断的に実践に取り組んだり、体験的な学習を取り入れたり、他校や他国との交流をしたり、地域や社会とのつながりを大切にしたり取り組みを実践したりして、オリンピック・パラリンピック教育のさらなる充実を目指していきたいです。